

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	令和4年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年4月に開所し13年が経ちました。大通りから離れた静かな住宅街の中にあります。ひなた庵では、町会に加入し近所を散歩したり地域福祉サロン等でご近所様と交流を行って顔見知りの方も増えてきました。職員は入居者様がゆっくりと充実した生活が送れるように関わっています。また外出が困難になった方でもみんなで外出できるよう行事を企画して外食にも出かけています。医療機関とも情報交換を密にし出来るだけ健康で安心して長く入居して頂けるようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市西部にある当事業所は、駅や高速道路からのアクセスがよい場所でありながら、大通りから入った古くからの住宅街に立地している。散歩する範囲に神社や寺、ホームの前には地域の方が集まるお地藏さんがあり静かでありながらご近所の方との交流が育まれる環境にある。女性スタッフが中心となり、笑顔があふれアットホームな雰囲気を作っている。食事は三食全て職員による手作りで提供され、塩分等も利用者の健康維持に配慮した味付けになっている。協力医とは夜23時まで電話対応できる体制を整えている。利用者の機能低下が進む中でも楽しく過ごしてもらうため、カラオケなどのレクリエーションを取り入れたり、月行事として七夕、夏祭り、芋煮など季節ごとの催しを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和4年10月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の掲示板上に理念を貼り、職員、来客者にも見えるよう掲示している。	法人理念と職員像を定め、玄関口に掲示し職員の目に触れるようにしている。また、職員会議の際に法人理念を介護の実践で落とし込みするための話し合いを行っている。理念に根差した介護目標を毎月定めて実践に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶したり、地域の行事に参加するようにしている。	自治会に加入し回覧板を通して地域行事の情報を得ている。地域交流は新型コロナウイルスのため、現在控えている。近隣への散歩の際に、近所の方とあいさつを交わすなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、施設の行事に参加していただくなど、交流の機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、活動報告し色々な意見を聞き入れサービス向上に努めている。	新型コロナウイルス以前は、利用者、行政主管課、地域包括支援センター、民生委員、地域福祉ボランティアの参画を得て開催していたが、令和2年9月から開催していない。事業所の運営状況については、2か月に1度資料を作成し、行政や地域包括に報告している。	運営状況に関する資料を作成しており、運営推進会議メンバーから書面で意見を伺う工夫等により運営推進会議の書面上での開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者来所時や、市役所訪問時、電話などで相談を行っている。	新型コロナウイルス感染防止のため、市からN95マスクやガウン等の物品の提供を受けたり、市の依頼により緊急入居を受け入れる等、市担当者との顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の意向を考え身体拘束をしないよう対応、ケアに努めている。	本部が実施する身体拘束に関する研修を管理者が受講し、管理者がその伝達研修を事業所内で実施している。研修後は職員が研修報告書を作成したり、管理者が理解した内容の聞き取りをするなど、理解の定着を図る取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修をしたり、職場内でも言葉使いや介護対応に注意し虐待防止に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している入居者はいないが、これからは権利擁護の制度について話し合っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際、本人家族に同席して頂き十分な説明をし理解納得して頂いたあと入所に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時は日常の様子、体調の変化を報告し、家族からの要望も受け付けている。	毎月の請求書を送付する際に利用者の状況を伝えている。更に家族来所時や電話連絡で利用者の状況を伝え、家族からの要望を聞き取りしている。利用者からは日常の会話から外食をしたい等の希望を伺い、実現に向けて検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回情報交換会を行い、毎日の申し送り時も運営に関する意見を聞く機会を設けている。	年1、2回面談の際に職員からの意見を聴取している。月1回の情報交換会で正規職員が運営に関する意見を出し合い、パート職員には情報交換会の会議録を回覧し、更に口頭で説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働いていけるよう日々環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに積極的に参加できるように一人一人のスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ施設内職員との情報交換の場を設けサービスの質の向上に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し困っていること、不安なことを把握し安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、心配事等を聞き安心できる関係性を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集をした上で適切なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることややりたいことを一緒に行い関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した時に日頃の状態を伝え本人と過ごす時間を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との手紙ややりとりなど関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍で面会が制限されているため、利用者からの手紙や親族からの写真のやり取りを支援している。親族の写真を見た時の利用者の反応を親族に伝え、関係性が継続できるよう取り組んでいる。また、馴染みの美容室を継続利用している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置やレクリエーション等で利用者同士関係が築けるように支援している。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談や対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をする上で希望や要望を把握し対応できるよう努めている。	食べたい物、したい事など日常の会話から聞き取り、聞き取ったことは実現できるよう支援し、ドライブやお茶会等、事業所全体で楽しみを共有している。会話で意向の聞き取りができない利用者からは、行動や目線、表情で意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、どのような暮らしをされてきたか把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送り等で状態の共有、話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員をつけ、他職員とも意見を交換しながら本人にあった介護計画を作成している。	利用者ごとの担当職員が日常、月単位での介護計画を考え、月の会議にて職員全体でカンファレンスしている。管理者が家族の要望を聞き取り、希望があれば取り入れている。往診時に医療者から意見を聞き、計画に取り入れて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を個人記録や連絡ノートで情報を共有し、介護計画にも活かせるよう対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に対応できるようスタッフ間、上司と相談し、よりよいサービスを提供できるよう努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月行事や地域のサークルに参加する等楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、または提携協力医の受診、往診にて適切な医療を受けている。	かかりつけ医を希望し受診している利用者もいるが、協力医に受診する方が多く、診療科目により併用しているケースもある。協力医が月1回往診し、緊急時も協力医と連携して対応している。体調は付き添いの家族から伝えるが、状態により事業所からメモや電話で伝え支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護師と連絡、相談を行いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は主治医、家族と情報交換を行いながら退院後もケアできるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向け本人、家族の意向を聞き主治医、スタッフとも話し合い支援準備ができるようにしている。	入居時に事業所でできることを伝え、併せて家族からの意向を聞き取りしている。利用者の顔色や普段と違う様子を確認し、終末期への移行がみられる利用者には法人スタッフと確認しながら進めている。他施設を紹介する他、看護師が常勤する隣接の系列事業所へ移転したり、看護師が当事業所で様子を見るなどして重度化した利用者の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期の施設内外の研修に参加し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署、防災会社立会いのもと年2回行い対応できるようにしている。	年2回避難訓練を実施している。以前は運営推進会議後に避難訓練を実施したり、夜想定訓練も実施していたが、現在はコロナ禍のため実施していない。多めの食料や水を備蓄し、コンロや発電機も準備している。	過去に水害や森林火災を経験していることから年2回の避難訓練だけでなく、図上訓練等の実施や、マニュアルを周知し災害発生時の初動確認等の取り組みに期待したい。

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にあつた介護を心掛け、言動にも注意し対応している。	丁寧な言葉遣いを基本にしながら利用者との関係性に配慮した対応をしている。1対1の入浴、着替え中、直接目に入らないような立ち位置での見守り、自立排泄の方には、少し扉を開けさせてもらうなどプライバシーに配慮した見守り支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いや希望を表現、伝えやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい生活、その人らしい暮らしができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に衣類の整理整頓や身だしなみの配慮を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に畑で作った野菜、季節のもの、日常の会話を大切に食事を楽しめるよう支援している。	担当職員が週1度食材を購入し、前日と重複しないように配慮しながら毎食手作りで提供している。随時ホットプレートを使い焼きそばなどを目の前で調理し頂いている。月一度の行事食や誕生日には希望を本人に聞き、皆で特別な食事を楽しんでいる。箸を自分で用意したり、下膳の支度をするなど職員と一緒に準備や片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足、栄養過多にならぬよう個人に合わせた健康状態が保てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔を心掛けている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせた介助、声掛けを行い支援している。	排泄チェック表を活用し、声掛けや見守りを行い排泄の自立に向けた支援をしている。また、自分でリハビリパンツの着脱ができる方、自分でパットの交換できる方は自分でやってもらい、残存能力の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう適度な運動をし、水分補給も促し予防している。また、主治医と相談し緩下剤の内服管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回の間隔で入浴。入浴が楽しい、気持ちいいと感じてもらえるような会話、介助をしている。	週2回午後の時間帯の入浴を基本とし、1対1の入浴介助を行っている。入浴剤やゆず湯、音楽を流すなど心地よく入浴ができるよう工夫している。拒否のある方には、時間をおいての声掛けや声掛けの仕方を工夫する等支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと安眠してもらえるように日々の時間サイクルを考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容を確認し、体調の変化などあった時は担当医に相談し調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活が豊かになるようにレクリエーションや個々の好きなことなど考えて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍において外出も制限があるため近所を散歩やドライブ、施設内にて外出した気分になれるような行事を考え行っている。	コロナ禍であるが、天気によって近所の神社や寺に散歩に出掛けたり、月1～2回ドライブに出掛け、芝桜などの景色を窓越しに楽しんでいる。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと金銭を預かり、必要な時は使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時は電話や手紙のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花、四季を感じられる壁画作りなど取り入れて楽しく居心地のよい空間作りをしている。	共用部はエアコン、ガスヒーター、空気清浄機、空間除菌加湿器で温度空調管理している。十分な広さ、窓から自然光も差し込みちようどよい明るさである。絵画や季節ごとの壁面装飾、鳥居を模した飾りを設け、利用者を楽しませている。炊事する心地よい音や職員と利用者の話し声が居間に流れ、家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が好きなようにソファでゆっくりしたり、たみでひなたぼっこできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好きな家具や家族の写真など飾り、居心地よい空間になるよう工夫している。	エアコン、カーテン、ベッドは備え付けで準備され、利用者の希望に応じてタンスやテレビ等を持ち込みしている。居室は清潔で明るく窓からの日差しも入る配置である。書道や手芸など自分が制作したものや家族、職員からの贈り物が飾られ、思い思いにアレンジしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の部屋に名前をつけたり、物の配置など工夫して安心して生活が送れるよう工夫している。		